日本心理学会第 69 回大会 WS(第 3 回研究発表会) 話題提供 発表要旨［4］

「鎮めと煽りの宗教性と spiritual well-being」

河野由美(藍野大学)

Ⅰ. はじめに

1999 年の WHO（世界保健機構）の総会において，従来の健康の定義に Spiritual を加えることが審議された（改正案は見送られている）．それを契機にして，日本の医療分野では Spirituality に対する関心は高まり，医学中央雑誌等の文献検索結果が示すように研究数は急速に増加している．しかし，Spirituality はきわめて多義的な概念であり，それが多様な要素からなることが指摘され，また宗教性と spirituality の相違に関しては見解が定まっているわけではない．

Ⅱ. Spiritual well-being

これまで日本の研究においてSpiritualityが取り上げられてきたのは，主に終末期の人に対してである．しかし近年日本においても，遺族，アルコール依存症，慢性疾患を有する人，高齢者，自死願望のある人など，様々な対象に対してもSpiritualityへの配慮が必要であることが認識されつつある．先に述べたように，Spiritualityは多様な要素を含んでいるが，同様にSpiritual well-beingに関しても様々な見解があり，Mental well-beingとSpiritual well-beingの相違に関しては明確に規定されているわけではない．本発表では，Spiritual well-beingの一側面に関して検討する．

Ⅲ. 宗教性（宗教観尺度）

金児（1997）は，日本人の宗教性を構造的に解明するための精緻な宗教観尺度を開発した．この尺度は成立（制度）宗教だけでなく，日本人の心の深層にある民俗宗教性（オカゲとタタリ意識）をも測定できるように開発されている．そして人の欲望に関しては，オカゲ意識はこれを鎮め，タタリ意識は煽る機能があることが指摘されている（金児，2005）．

Ⅳ. 発表概要

1. 目的

本発表では，宗教性と spirituality は全く同じものではないが，共通する要素があるとの観点に立ち，日本人の spirituality の一側面を金児の宗教観尺度を用いて明らかにする．中でも本人も日頃は宗教とは意識しない民俗宗教性に焦点を当て，河野の調査結果をもとに民俗宗教性（オカゲとタタリ，鎮めと煽り）と「存在/人生の意義・意味を見出す」「自己実現への努力」「死すべきものとしての覚悟」「共同体感覚と強い連帯感」「感謝と尊敬」「肯定的な感情」との関連に焦点をあてる．

2. 結果（一部抜粋）

(1). **宗教性**（大阪市立大学文学研究科 COE：20 歳～84 歳までの 4,000 名を対象にした関西圏住民への無作為抽出調査結果）．

① 信仰の有無にかかわりなく日本人の多くは加護観念と霊魂観念を有している.

② 向宗教性と加護観念は年齢とともに増加するが，霊魂観念は年齢とともに低下する（若年者の霊術や精神世界への志向性).

(2). 宗教性と Spiritual well-being

① 主観的幸福感（高齢者大学受講者 204 名） → 高齢者においては，オカゲ意識の強い者ほど「老いの受容」「満足感」が高い.

② 死別後の心理状態（大切な他者を亡くした遺族 198 名） → オカゲ意識が強い者ほど死別後の「生きる意欲の消失」が少なく，「周囲への感謝」の気持ちが強い.

③ 一般の人（30 歳～69 歳までの H 県民への無作為抽出調査)・遺族・ケアワーカー（介護保険関連事業施設職員への無作為抽出調査）において，向宗教性は「自分の生きている意味や目的をよく考える」程度と関連がある.

④ 遺族は一般の人よりも余命がわずかな場合，「自分の信じている宗教関係者と話をすることを望む」人の割合が多い.

⑤ 死の恐怖 → 一般の人では「自己の死に対する恐怖」はオカゲ意識の高い者ほど弱く，タタリ意識の高いものほど強い.

⑥ ケアワーカーではタタリ意識の強い者ほど死体など「他者の死に対する恐怖」が強い.

⑦ バーンアウト（看護師 48 名） → 久保・田尾のバーンアウト尺度において「霊魂観念」の強い者ほど「情緒的消耗感」が強い.「向宗教性」や「加護観念」が高い者ほど「個人的達成感」が強い.

⑧ コミュニティ意識(関西圏住民無作為抽出調査） → オカゲ意識の強い者ほど，「地域共同意識」が強く，タタリ意識の強い者ほど「プライバシー意識」や「人任せ主義」が強い.

⑨ 宗教的基盤のある病院でのインタビュー調査において，末期患者や医療者への宗教のもつ「癒し」の機能が推察された一方で，タタリ意識や病因論に関する弊害が示された.

Ⅴ. おわりに

日本人の spiritual well-being には，民俗宗教性が大きく関連している．そして，加護観念（オカゲ意識）は恐怖や不満を鎮める機能を有しているが，それに対して霊魂観念（タタリ意識）は恐怖や不満を煽る機能があることが示唆された．日本文化を考慮した spirituality を解明するには，民俗宗教性にも焦点を当てる必要があると思われる.

Ⅵ. 引用文献

- 金児曉嗣　1997　日本人の宗教性－オカゲとタタリの社会心理学　新曜社
- 金児恵　2005　文化と宗教　金児曉嗣・結城雅樹（編）　文化行動の社会心理学　北大路書房　pp. 136－149.